慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	堤林, 剣(Tsutsumibayashi, Ken)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2023
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.96, No.2 (2023. 2) ,p.v- vii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大山耕輔教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20230228--005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

大山耕輔先生は、本年三月末日をもって慶應義塾大学法学部を定年により退職される。先生は、慶應義塾大学法学部政治学科を一九八〇年にご卒業の後、同大学大学院法学研究科の修士課程に進まれた。八二年に修士課程を修了の後、同研究科博士課程に入学された。八六年から東京大学社会科学研究所の助手として勤務された後、八八年に筑波大学社会科学系講師に採用され、九一年には同大学助教授に昇任された。九四年には「行政指導をめぐる政策過程」と題する博士論文（後に『行政指導の政治経済学―産業政策の形成と実施』〔有斐閣、一九九六年〕として刊行）で慶應義塾大学から博士（法学）の学位を授与されている。また、九六年三月から九七年一月にかけて、先生はマサチューセッツ工科大学国際研究センターにて、訪問研究員としてご留学された。そして、九九年四月に、慶應義塾大学法学部に助教授として着任され、二〇〇一年に教授に昇任された。また、二〇〇三年五月から〇四年三月まで、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス政治学部にアカデミックビジターとしてご留学された。法学部政治学科において、先生は主に「行政学」の講義をご担当され、実に二四年の長きにわたり、法学部の発展にご尽力くださった。

大山先生は、本学名誉教授であられる曽根泰教先生の研究会に学ばれた。先生のご研究は、行政学、政策研究、公共ガバナンスと大変幅広い。門下であられる小田勇樹先生によれば、時として国家の側からのアプローチが多い行政学において、大山先生のご研究は、市民社会の側からアプローチする行政学であるという。最初の単著で

ある『行政指導の政治経済学』では、政治学・行政学の政策過程研究の視角から、日本の政治・行政・経済のシステムにおける行政指導の研究に取り組まれた。同書は行政指導という現象を政治学・行政学の視点から明らかにした研究として高く評価されている。

続く単著である『エネルギー・ガバナンスの行政学』（二〇〇二年、慶應義塾大学出版会）では、日本のエネルギーと原子力の政策過程を、ガバナンスの視点から分析された。また、民主主義の視点から公共部門のガバナンスを取り上げた『公共ガバナンス』（二〇一〇年、ミネルヴァ書房）を上梓されたほか、各領域のガバナンスを分析した『比較ガバナンス』（二〇一一年、おうふう）でも編者をお務めになられるなど、公共ガバナンス研究の第一人者として、多くの研究成果を発表されている。近年は、環境学や生態学の研究者との大規模な共同研究にも参加され、自然環境政策のガバナンスに関する研究成果を精力的に発表されており、行政学の領域に留まらず学際的にご活躍されている。

数多くの研究業績を発表されてきた大山先生は、学会やさまざまな社会活動においても要職を務められた。日本行政学会では理事長（二〇一六～一八年）、日本公共政策学会では副会長（二〇一八～二〇年）として、各学会の発展にご尽力された。また、日本学術会議の連携会員および会員（二〇一四～二三年）としても、日本の学術の発展に貢献されている。

以上のように、大山先生は数多くの研究・社会活動の足跡を残されたが、学内行政の面でも、学生総合センター三田支部委員（二〇〇〇～〇一年）、法学部学習指導主任（二〇〇九～一一年）、法学研究科学習指導委員（二〇一四～一五年）、法学部人事委員長（二〇一五～二一年）など多くの要職を務められ、法学部と義塾の発展に大いに貢献された。

また、先生はＣＯＥおよびＧＣＯＥ、さらにはスーパーグローバルの研究プロジェクトも積極的に推進され、

リーダーシップを発揮された。これらのプロジェクトに関しては、私も何度か参加させていただき、研究とプロジェクト運営の両面で先生から本当に多くのことを学ばせていただいた。そして私が学部長に就任してからも、常任委員をお引き受けくださり、多方面において頗る有益なご助言を頂戴した。

ここに、先生の長年にわたる法学部へのご貢献に厚く御礼申し上げるとともに、今後のご健勝とご活躍とを心から祈念し、法学部として本号を謹んで進呈させていただきたい。

二〇二三年二月

法学部長　堤　林　　剣